



学校だより

平成30年 1月 9日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.477

ないものは創れ

校長 谷田 弘子

あけまして おめでとうございます 今年もよろしく願ひいたします

新しい年、平成30年が始まりました。3学期が始まり、年末年始を家庭で過ごしていた児童が、一回り大きくなって、元気よく登校してきました。さまざまな経験をして、たくましくなったことでしょう。3学期はあっという間に過ぎますが、新しい学年へのまとめとなる大切な時期です。さらなる成長を期待しております。

さて、昨年6年生に、「算数の問題の解き方が分からなかったとき、あなたはどうしますか？」という質問をしました。その結果、自分で調べ最後まで考えるが35%、先生に質問するが20%、友達に聞くが20%、家の人に教わるが15%、あきらめてそのままにしておくが10%でした。この結果を見て、皆さんはどのような感想をもちますか。私は、すばらしい子供が多いと感じました。

まず、第一は、分からないことを自分で最後まで調べて取り組むという子供が35%、全体の約三分の一もいるということです。この粘り強い態度はすばらしいです。第二に、自分で考えても、どうしても分からないときは、先生に質問したり、友達に相談したり、お家の方に教えてもらったりして、何とかしようとしている子供が多くいることです。第三に、これは少し残念ですが、あきらめてそのままにしておくという子供が10%、10人に1人ということです。しかし、あきらめたら、いつまでも解決できません。このようなときにどうすればよいのでしょうか。

自分で最後までできればいいのですが、行き詰まる場合があります。その時は、まわりの人に相談することはとてもよいことです。勉強だけではなく、悩み事も、自分一人で悩んでいないで先生や周りの人に相談することが大切です。意味の分からない言葉があったらどうしますか。辞書で調べます。サッカーのボールを思い通りに蹴ることができない。このようなときには、コーチやうまくできる友達にコツを聞いて、根気よく練習するとよいでしょう。将来、宇宙に関わる仕事をしたい。幼稚園の先生になって、いろいろなことを教えたい。宇宙に関わる仕事や幼稚園の先生になるためには必要な勉強をする必要があります。それなら、エネルギーを簡単に作り出す装置、がんを治す薬、砂漠でも育つ米や野菜を作る仕組みなど、必要なものにも関わらずない、誰も知らないときにはどうすればよいのでしょうか。これはとてもむずかしいことです。ライト兄弟は空を飛びたいと思いましたが、そのようなものがないので、飛行機を発明しました。遠くの人と話ができたらと思って、ベルは電話を発明しました。病気の人を救いたいと野口英世や北里柴三郎は、医者となって研究を続け、たくさんの人を救いました。現在も多く日本人が世界中の貧しい人たちのために支援活動を行い、自立の手助けをしています。

このように夢や思いを実現した人はたくさんいます。その人たちのおかげで今の私たちの生活が成り立っています。児童も夢をもち、願いをもって、前向きに生活していったほしいと願っています。ないものは、誰かがもってくるのを待つのではなく、自分で創っていく人になってほしいと思います。「ないものは創れ」なのです。

